



## 区役所ロビーでも シルバー人材活躍中

清水孝雄さん (社)杉並区シルバー人材センター・理事

プロフィール：1940年生まれ。高井戸在住。  
杉並区内にある電機メーカーを退職。  
(社)杉並区シルバー人材センター <http://www.sjc.ne.jp/suginami/>

### ■シルバー人材センターの 理事になるまで



▲杉並区役所1階ロビー「銀の手」前で

杉並区役所の1階ロビーに「銀の手」(土日祝日年末年始を除く毎日10時～16時)というショップがあるのをご存じだろうか。

セーターやポーチなど、オリジナルアイデア商品、衣類、小物工芸品等が列ぶ小さなお店である。銀の手の「銀」はシルバー、つまりシルバー人材センター会員の皆さんの「手」作りの作品を販売している。売子の子の皆さんも同会の会員の方々だが、中に“黒一点”、お一人男性が混じっている。それが清水孝雄さんである。

清水さんは、さる大手電機メーカーでエンジニアとしての定年の日まで勤め上げた。高校を卒業後、労働省(現・厚生労働省)主管の職業訓練所のラジオ・テレビ科で1年間学んだ。正確にいうと、実は、山好きの清水さん、学校卒業間際の休みの日、丹沢で岩登りをしている最中に落下し、長期入院をしている。それも近くに外科医院がなかったた

め、なんと、産婦人科に担ぎ込まれたそうだ。しかし、ケガも治り、無事卒業。通信機器・電子機器の大手メーカーに就職する。

それから約40年後の2000年11月15日、満60歳の誕生日に清水さんは定年を迎える。定年後のことはあまり考えていなかった。しかし、まだ自分に出来ることはある、とは思っていた。そんなある日、神田川を散策中、旧友に出会ってシルバー人材センターのことを知る。シルバー人材センターは、ハローワークとは全く違う。これまで培ってきた経験やノウハウを生かして世の中に貢献する。そんなところに魅力を感じて会員となった。とはいえ、具体的に何をしたいというようなものはなかった。エンジニアとしての経験を活かすというより自分の健康管理のためだった。だから、最初は、何でもやれることをやろうと思った。

そんな折り、「銀の手」の売子(作品販売協力員)の募集があり飛びついたのだ。エンジニアは職人気質で気難しい・・・といったイメージがあるが、多彩な趣味の持ち主でもある清水さんは、本来人付き合いが得意である。接客は打ってつけでもあった。女性陣に混じっても違和感を感じることもない。

### ■シルバー人材センターについて



▲区役所1階ロビー「銀の手」での販売の様子

ここで少しシルバー人材センターについて紹介しておこう。シルバー人材センターは、高齢者にふさわしい仕事を家庭・企業・公共団体等から引き受け、会員に提供する都道府県知事許可の社団法人で、営利を目的としない、自主的な会員組織である。就業や収入の保障はないが、各人の希望と能力に応じた働き方ができる。また、働くことだけでなく、街路の美化などのボランティア活動を通して地域社会に貢献している。

杉並区では、2700人ほどの会員が登録している。仕事を頼んだ経験のない人でも、有料自転車駐車場や公園などで活動する会員に出会っているはずだ。地域区民センターまつり等にも定期的に参加し、包丁とぎ、傘修理などを行っている。

杉並区のシルバー人材センターは、7地区(高円寺地区、和田堀地区、和泉下高地区、阿佐谷地区、荻窪地区、井荻地区、高井戸地区)82班からなる組織で、会員の6割が

＼

男性。現在清水さんは理事として高井戸地区を担当している。経験を生かすというより、自分の健康管理が目的だったから、頼まれれば何でもやる。そんな清水さんの積極的な姿勢が評価され、会員になってわずか1年半で、理事に就任することになったのである。

## ■「会社時代より多忙、でも会社時代より健康」です



▲趣味のパソコンやコーラスを語る清水さん

会社時代の経験にこだわることなく、持ち前の積極性と行動力でシルバー人材センターの理事として活躍する清水さんだが、会社時代から慣れ親しんできたパソコンのスキルは大いに役立っている。地域で開催されるパソコンスクールに通う高齢者の方が増えたとはいえ、実践的な知識とスキルを持った人材はまだ少ない。事務方として大忙しの日々である。

加えて清水さんには多彩な趣味がある。その代表的なものが会社時代から続くコーラスである。連日コーラス絡みのスケジュールで埋まっている。杉並の90団体が所属する杉並区コーラス連盟の副会長であり、東京男声合唱協会の事務局長も務める。さらには、高井戸混声コーラスのパートリーダーであり、杉並区以外でも渋谷区の男声コーラスに所属しており、会社のOB会のコーラスにも・・・。

ちなみに、清水さんの担当は混声ではバス、男声コーラスではバリトンだ。平日も週末も関係なく、そして日曜日には、区内「代田橋」や「浜田山」のお風呂屋さんで区が推進する「杉並区まちの湯健康事業」のコーラス講座の講師としても活躍している。まさに“コーラス漬け”の日々。歌い手として、シルバー

人材センターの理事としての活動だけでなく、得意のパソコンでは、スコアメーカーという楽譜作成ソフトを駆使して、CDやDVDに記録を残し、まるで市販品のような作品まで作ってしまう。かなり凝り性のようでもある。そんな清水さんを見て、奥さんは「主人をコーラスに盗られた、私はコーラス未亡人よ」とおっしゃるとか。「現役時代よりも忙しい、しかし、現役時代よりも健康になった」と清水さんは笑う。

持てる知識や経験を活かして地域に貢献するシルバー人材センターの会員の人たち。超高齢化時代を迎えた日本で、今後ますます、その活動に期待が集まる。とはいえ、清水さんのように、ごく自然体で「その日暮らしを楽しむ(清水さん)」という発想の人もいる。むしろ、会社時代の経験を活かそうと意気込むより、時間に追われることなく、自由に好きなことをやる。定年後だからこそ許される、そんな“贅沢な時間”を楽しむことで、心にゆとりが生まれ、結果として地域や周りの人たちの役にも立つ。そんな生き方があってもよいのではないだろうか。

人生80年、定年後の人生は結構長い。現役時代に身に付けた知識や技術は貴重な財産だが、時代は日々変化している。また、会社組織と地域社会とはまったく異なる世界でもある。組織から自由になった時、清水さんのように、一度自分をリセットしてみてもいいだろうか。会社時代には気が付かなかった、自分の中に眠る新たな才能や可能性を発見することもあるはずだ。

(文：村田静保)